

一粒の麦

ニュースレター

Vol.17



1311年 アメリカ ドウッチオの「ペテロとアンデレの召命」

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。」

(マタイによる福音書 4章 19節)

2012年7月18日

巻頭言

さいたま教区の司牧者たち

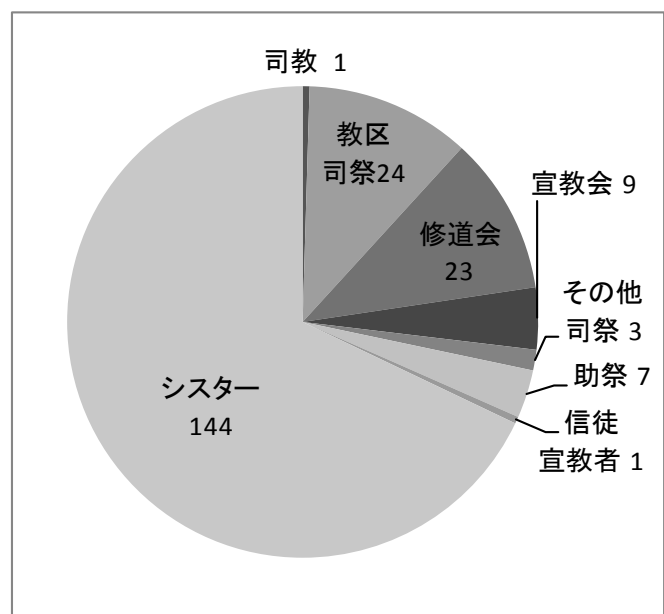
カトリックさいたま教区 司教
マルセリーノ 谷 大二

《クイズ》

- (1)さいたま教区で働く司牧者は何名でしょうか？
- (2)シスター(観想修道会も含めて)の数は？
- (3)教区司祭は何名でしょうか？
- (4)2000 年以降に叙階された教区司祭の数は？
- (5)現役司祭の平均年齢は？
- (6)シスターの平均年齢は？ (答えは以下の文章の中に書かれています。)

教区の皆様、そして「一粒の麦」会員の皆様、神学生養成のための祈り、会費、献金をありがとうございます。「一粒の麦」は山口神父が神学生になったときに始まり、十数年になります。2000 年以降に叙階された教区司祭は山口、土屋、藤田(薫)、中嶋、デイン、吉川、藤田(恵)、ネルソン、加藤、佐藤、姜、ホアン、国本の 13 名。また、金神父がさいたま教区に入りました。現在、教区司祭は私を除いて 24 名。そのうち引退、療養中の司祭は 5 名。現役で働いている司祭は 19 名です。今、教区司祭団は若返りました。現在の教区司祭の平均年齢は 55 歳です。現役の平均年齢は 49 歳。

また、MOPP のルイ、レミの 2 名も司祭に叙階され、6 名の終身助祭も生まれました。宣教会、修道会の多くの司祭、シスターたちもさいたま教区の宣教司牧のために来られ、きめ細やかな司牧を担ってくださっています。

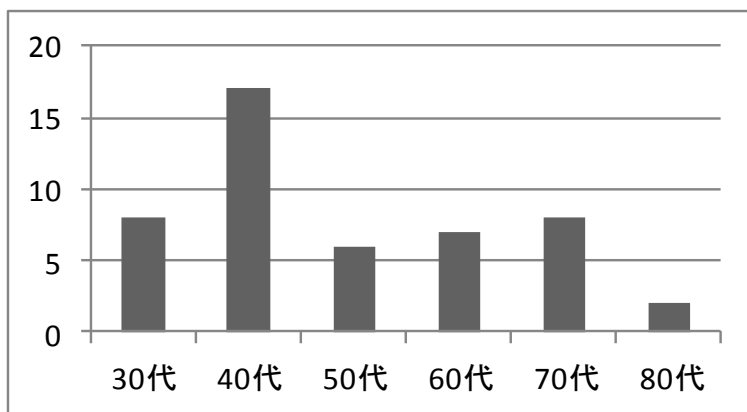


現在のさいたま教区で働いている司祭、引退療養司祭も含めるとグラフのような構成になっています。

現在、さいたま教区の小教区、ブロック、言語別司牧の担当司祭として任命されている司祭は48名です。その平均年齢は54歳。その年代別構成は次のグラフに。なお、シスターの平均年齢は不詳です。いえ、調べることができませんでした。

この12年間の神の恵みに感謝します。そして、みなさんがその神の恵みを支えてくださっていることに心から感謝します。いま、神学生は5名。司祭を目指している青年もいます。これからも皆さんの支えと祈りをお願いいたします。

司祭やシスターの召命は神からの呼びかけに応えることです。この世の価値観ではなく、神の価値観に生きることです。そして生涯をかけて神の呼びかけに応えるそれぞれの役務を果たそうとすることです。この召命に生きることが、きっと社会の中で大きなしるしとなるに違いありません。そして、司牧者の生き方に共感する若者が増えていることにもこころから神に感謝したいと思います。



神学生より皆様へ感謝をこめて

助祭叙階のお恵みを受けて

神学科 4 年(助祭) アシジのフランシスコ 坂上 彰

「一粒の麦」の会員の皆様、私は去る 3 月 10 日、出身教会であります埼玉県在所沢教会におきまして、谷 大二司教様の司式により助祭叙階のお恵みを頂くことができました。これもひとえに、皆様方のお祈りや励まし、ご支援のお陰と深く感謝申し上げます。これまでの神学生としての歩みを振り返った時、多くの皆様の「頑張ってくださいね」「お祈りしています」という声に励まされ、背中を押して頂きここまで来ることができました。

さて、神学校における助祭コースは、これまでの 5 年間とは大きく違うカリキュラムに基づいての養成となります。ここで神学校が掲げる助祭コースのプログラムをご紹介します。『助祭コース案内』という冊子では、

1. この一年間の課題は、宣教司牧に向けての実践的な神学の総合(神学すること)であり、宣教司牧に向けての具体的な準備、すなわち、司祭として派遣されるための準備である。
2. この一年間で学ぶことは、単なる「司牧のテクニク」のようなものではない。個々の技術的な問題ばかりに終始することなく、事柄の本質を見極め、問題を解決していく姿勢、人々の生活や社会の現実に基づいて神学する努力を忘れてはならない。また、司祭として生き、生涯学び、人々に奉仕するために、何よりもキリストとの一致が必要となる。
3. ここでなされる勉強は、本人が将来宣教司牧の場でよりよく司祭として働くために直接必要な勉強であり、その成果は成績評価によって問われるのではなく、将来司祭として働く場で問われるものである。

と記されています。

私たち助祭団はこの指針のもと、「青少年司牧 ―カルトを中心として―」「修道女・信徒からみた司牧者」「DV・ハラスメントについて」「ダルク・AA訪問」「現代社会における教会と宣教」といったテーマについて、講師の神父様やシスターをお招きしてお話を伺ったり、実際の活動を体験したりしています。

神学校での最後の 1 年間、皆様方から頂いた多くのお祈りや励まし、ご支援に感謝すると共に、神学生としての集大成のつもりで過ごして参りたいと思っております。これからどうぞ宜しくお願い致します。

『神学院生活の5年目を迎えて』

神学科 3 年 フランシスコ 高橋史人

こんにちは。神学科3年生の高橋史人です。私の神学院生活は5年目に入りました。今年はこれまで神学校で学んできたことや、いろいろな方々との出会い、皆様の支えや神さまの支えなどをよく振り返り、今後に向けての準備をしていく年です。これまでも増してキリストの教えの理解を深めていきたいと思っています。

先日、神学院の養成者である熊川神父様と数名の神学生と一緒に、長崎県の五島列島(以下五島)へ巡礼に行きました。熊川神父様は下五島のご出身で、そのご実家に宿泊させていただきながら、五島の様々な歴史ある教会を巡礼することができました。また五島は自然も素晴らしく、海や空がとても美しかったです。私は五島でとても貴重な時間を過ごすことができました。

神学院生活の5年目に入り、今私が大切に思うことは、一日一日を大切にすることです。「主の祈り」にあるように、「日ごとの糧を今日もお与えください」という気持ちで一日を過ごしていくことが大切ではないかと思っています。神さまがくださった今日という一日をどのように神さまに捧げていくか、それを考えながら生きることを、大切にしていきたいと思います。

昨年の震災があり、日本は新たな局面をむかえています。そして世界では内戦などが続く国もあります。このような時代にあって、キリストが苦しんでいる人や悲しみの中にある人の隣人であるように、私たちも、苦しんでいる人や悲しみの中にある人の隣人でなくてはなりません。神さまがこの世界にわたしたちを遣わされたのは、この世界に希望と愛を広げていくためではないかと思えます。人をよりいっそう大切にし、神さまを信じて希望をもって、歩み続けなければならないと強く感じます。

さいたま教区は今年、4名の司祭叙階がありました。先輩方が司祭になっていく姿を見ると勇気をもらいます。わたしたち神学生がたくさんの人々の祈りと助けによって支えられていることをいつも心に思いながら、無力な者を選ばれる神を信じて、これからも進んで行こうと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

ふたつのテーマを持って

神学科3年 フランシスコ 山口 一彦

皆様、こんにちは。神学科3年の山口です。福岡キャンパスでの生活も、あっという間に2年間で過ぎ去り、今年は福岡での最高学年になってしまいました。とは言っても、同じ学年には私を含めて3名の神学生しかいません。そのため、それぞれが今まで以上に、いろいろとリーダーシップを取らなければならない立場にいます。また一方で、神学論文を執筆する学年でもあります。そこで、私は今年、ふたつの大きなテーマを自分に課すことにいたしました。

一つ目は、神学生会会長としての務めです。神学生会と言っても、福岡キャンパスの神学生は総勢16名。そのまとめ役、世話役としての務めですから、一般の会社の役職に比べれば大したことはないかもしれません。営業成績や売上げを気にすることはありません。それでも四六時中生活を共にしていれば、様々なことがあります。「共同体を大切にする」「個人的なことよりも共同体のことを優先する」……これが基本なのかもしれません。しかし頭では判っていても、生活の中で実行するのはなかなか難しいことです。以前から私は、まずさっさと自分のノルマを片付けた上で、心に余裕を持ちながら「みんなのこと」を考える傾向がありました。今年はそれを一歩進めて、自分のことは後回しにする度量を、少しでも身につけたいと考えています。

二つ目は、論文。テーマは「小学校中学年における信仰教育」にしました。初聖体と堅信の間に位置する小学3～4年生。教育学や発達心理学から見ると、この年頃も非常に大切な時期なのだそうです。そこで、今まで教会で出会った子どもたちのことを思い浮かべながら、さらに今年の司牧実習先である福岡教区浄水通(じょうすいどおり)教会の子どもたちとのやり取りを貴重な体験としながら、何とか自分なりに、この大切な年頃における信仰教育の肝心要を整理してみたいと考えています。

二つのテーマは共に、私にとって重過ぎるものです。それでも、神様の導きと、皆様のお祈りとに支えられながら、未熟者なりに必死にあがいていこうと決心しています。

皆様、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

いただいた「今」を大切に

哲学科2年 ペトロ 高瀬 典之

実りの多い一年間を過ごし、哲学科生として二年目の年を迎えることができました。神学校の生活の中でつらいことや悩むこともありますが、そんな時、支えて下さる教会の皆様一人一人の顔が浮かんで来て乗り越えることができます。本当にいつもお祈りと暖かいご支援をありがとうございます。

二年生になった今年は自分自身の召命を考えて生活することはもちろんですが、それに加えて

先輩として一年生たちのサポートをすることも求められるようになります。生活の中では「学生会」、「典礼部」、「食事部」、「図書部」、「生活部」など、それぞれの仕事を分担する係がありますが、その各部の仕事では哲学科二年生が中心的な役割を担うことになります。私は東京キャンパスの毎日のミサや祈りなど典礼全般を担当する典礼部の部長をしています。ミサや典礼のことなど不十分な点もたくさんありますが、助祭の先輩方の助けや友人たちとの協力で良い祈りの場ができるように頑張っています。ミサの所作や規則、意味について学ぶ良いチャンスだと思いますので、ミサをより身近で豊かなものとして味わい、祈りを深めていけたらよいと思います。

また、学習の面では哲学科の集大成として、哲学研究レポートの提出があります。私の研究テーマは「アウグスティヌスの回心における罪と悪の問題」です。アウグスティヌスというと真面目で難しい印象がありましたが、『告白録』の中で、回心の前は乱れた奔放な生活を送っていたことを語っています。私自身も神学校での生活の中で「もっと寝ていたい」とか「もっと自由にしたい」というような誘惑や悪への傾きにかられることがあります。聖人であるアウグスティヌスが回心という心の大きな動きの中で、どのように罪や悪の問題を考えていったのかに興味を持ちました。哲学は『「神学する」ことの基礎』だとよく言われます。来年以降の神学の基礎作りをしっかりと行えるようにじっくりと聖アウグスティヌスの言葉と向き合っていきたいと思います。

昨年一年間の神学院での生活はとても短くあっという間に過ぎてしまったように感じました。皆さんから頂いた「今」という時間を大切に自分の勉強や生活はもちろんのこと、東京キャンパスで生活する神学生や共同体全体のことも考え、楽しく豊かな共同生活が行えるように気配りができるように努力していきたいと思います。

よろしくお願い致します

哲学科 1 年 インマヌエル 永島 真実

みなさん、はじめまして。永島真実と申します。出身は栃木教会で、昨年は志願期としてセウイホームや福島県いわき市で過ごし、今年度、日本カトリック神学院に入学させていただきました。

神学院に入学し早くも3か月が経とうとしています。こちらでの生活リズムにも少しずつですが慣れてきました。同学年の仲間や諸先輩方、養成者の神父様方、神学院を支えてくださっているシスター方、また、たくさんの方々に支えられてこちらでの生活が送れること感謝しております。

昨年は東日本大震災もあり、当初、住むようにと言われたセウイホームにも荷物を置かせていただくばかりであり継続的な関わりを持つことができませんでした。それでもセウイの鈴木神父様をはじめ職員の方々に、利用者の方々に暖かく迎えていただいたこと感謝しております。いわきから帰ってきたときにも私の怠慢や甘え、また疲れもあり、あまり積極的な関わりが持てなかったこと反省しております。

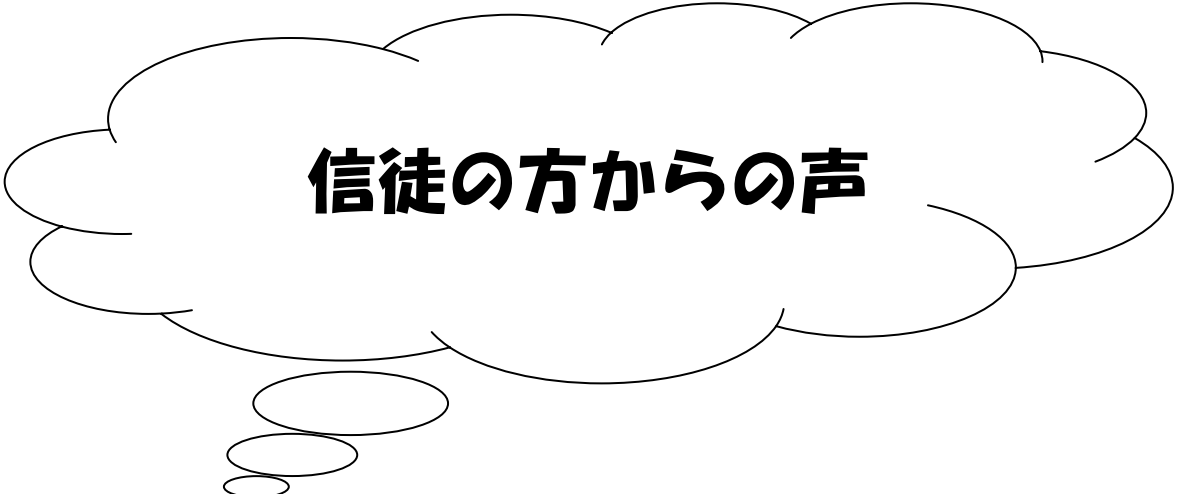
いわきでは、5月の半ばに派遣された際、湯本ステーションにおいてボランティアの後方支援や情報収集といった仕事をさせていただきました。6月以降は避難所を閉鎖する動きがあり、仮設

住宅への支援へと活動場所や活動の方法が変化していった時期でした。秋以降は本格的に仮設住宅への支援、もみの木ステーションの準備の仕事をさせていただいていました。この間、被災者の方、湯本教会の信徒のみなさんやいわき・小名浜教会の信徒のみなさん、様々な方と出会うことができました。被災地に長期で寄り添っていくことの大切さ・必要性をひしひしと感じました。この体験は私のこれからの歩みにとって大切な時間となりました。

また、那須アルスの家での 3 か月はこれからの生活を送る上でとても有意義なものになりました。1 日が毎朝のミサで始まり、規則正しい食生活、司祭生活を終えようとしている神父様方との生活、当初はいわきに未練のような感情も残っていましたが、こちらでの生活は私のこれからのとても良い時間になったのではないかと思います。特に、野上神父様の米寿のお祝いのミサは心に残っています。短いお説教の際、この世に生まれてきたこと、司祭にしてくださったことに涙を浮かべつつ感謝を捧げておられた姿に、司祭職を全うすることの素晴らしさを垣間見たような気がしています。

振り返ってみると、この 1 年はたくさんの出会いの年だったように思います。今までの人生のなかで与えられた出会いの恵み、これに加えて今年のお出会い、こういったものをじっくりと味わうことができました。これからもたくさんの出会い、また自分にとって苦い出会いもあることでしょう。自分の弱さや強さ、苦手なところや得意なところ、すべてを神様に捧げて歩んでいきたいと思っています。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。





信徒の方からの声

神学生のみなさんへ

古河教会 セシリア 須藤千恵子

主の平安

神学生のみなさん、お変わり有りませんか。元気に食事は摂れていますか。

宇都宮線で上野から1時間、茨城県西のはずれに位置する、小さな共同体から2名、また、さいたま教区全体でも5名の神学生や多くの召命志願者が生まれていることは大きな喜びです。

神学校生活は如何ですか。神様からのメッセージは聴こえていますか。共同体の小さな祈りは皆さんの支えになっていますか。派遣された他教会信徒の方と共に暖かい言葉、いつも見守っていて下さることに、感謝しつつ、ちょっぴり誇らしい気持ちを頂いています。

昨年3月に発生した大災害・原発事故の際、いち早く被災地に入られ傾聴を含むお働きは多くの方に希望と慰めをお与えになりました。有難うございます。

召命を受け入れ我が子をお捧げする決断、特にお母様のお気持ちを思うとき、イエス様を思うマリア様の御心と重なります。神様への信頼と我が子への深い愛、ご家族としての絆を、静かに祈られています。どうぞ心に留めておいてくださいね。

「神の計らいは限りなく 生涯私はその中で生きる」

叙階を受け出身教会での初ミサ！その榮譽に与れることを心から待ち望んでいます。御言葉を通し、愛をもって小さくされた人々の心に寄り添い、ご指導いただける日を願っています。お身体を大切にしてください。ますますのご活躍をお祈りしております。

P.S

時には羽を休めにお戻りください。信徒一同いつでも大歓迎ですよ。

新司祭より

感謝

群馬中央北ブロック 担当司祭
(前橋教会)

ルカ ^{カン} 姜 ^{ミンジュ} 玫周

「一粒の麦」の会員の皆さん、お元気でしたか。いつも神学生たちのためにお祈りやご支援をくださり、ありがとうございます。

この場で皆さんに感謝の挨拶をさせていただいたのが、いつの間にか、今回でもう7回目になっております。2006年神学校に入ってから、6年という時間が過ぎまして、今年2月、何とか無事に神学校を卒業することができました。そして、3月20日大宮教会で、多くの方々が見守ってくださっている中で他の3人とともに、司祭叙階の恵みをいただきました。至らないところばかりの自分にこれほど大きな恵みをくださった神様に感謝しております。そして、今まで出会ったすべての方々にも感謝の礼を申し上げます。更に、会ったこともないのに、さいたま教区の神学生たちのためにお祈りやご支援をしてくださっているすべての方々にも感謝の言葉を申し上げたいと思います。

4月から司教様の辞令によって、群馬中央・北ブロックの担当になりました。前橋、渋川、沼田、中之条、草津の教会へ派遣されて来ています。私には特に、このブロックと深い縁があります。最初に日本に来たとき、日本語の勉強をしたのが前橋教会でした。岡神父様をはじめ、多くのシスター一方と信者の方々にお世話になっていました。そして当時、渋川教会には私を日本に連れてきてくださった金神父様がいらっやいまして、渋川、沼田、草津教会にもお世話になっていました。司祭に叙階されまして、最初の赴任地としてこちらに来られたこと、嬉しく思っています。

今まで皆様のおかげさまでここまで来られました。これからはそれに少しでも恩返しができたいと思いますが、叙階されてから4ヶ月しか経っていない新人で、まだ右も左も分からない状況です。そして、これからの長い道は一人でするものではないと感じています。これからも続けてお祈りをしてくださるよう、お願い申し上げたいと思います。

今まで本当にありがとうございました。そして、これからもよろしく願います。

仲間とともに叙階されて

埼玉南ブロック担当司祭

(浦和・朝霞・川口・草加教会)

アントニオ 佐藤智宏

今年、3月20日に、私を含め4人がこのさいたま教区で司祭叙階の恵みを受けることができました。これまでの私たちの歩みを強く支えてくださった一粒の麦の会員の皆様に、改めて今、感謝申し上げます。

神学院生活で最後の1年間だった昨年度の助祭コースは、12人という仲間恵まれてスタートしました。同時に私たち助祭全員が東日本大震災の被災地(最初に皆で仙台のカテドラル)に向かって約3週間のボランティア活動という内容で2011年4月は幕を開けました。そこで見た光景は12人それぞれにとって決して忘れられない記憶として残るでしょう。私はこの悲しくも貴重な体験の中で、「自分は一体これからカトリックの司祭としてこの国で何ができるのか?」という問いが、自然と心の奥底からわき上がってきました。この圧倒的な自然の猛威と、私たち人間の様々な文化や築き上げてきた生活が、世界がこんなにも脆く瓦礫の山となっていく…。司祭になる前のこの体験を通して、自分は1人では「何者でもない」という無力な存在であることを強く感じ、しかしそれでも多くの仲間とともに支えあうことで、やはり何かが「変えられていく」、私が皆とともに神の恵みによって「強められていく」という事実もあることを感じました。

これからの司祭生活も多くの試練が神さまによって準備されていると思います。そのようなときにも一緒に司祭の道を歩む仲間とともに、また同じキリスト者である皆様の祈りにも助けられながら、最後まで走り通す決意です。どうぞこれからもよろしくお願いします!

新司祭になって・・・

埼玉西ブロック担当司祭

(川越・上福岡教会)

洗礼者ヨハネ グエン・ゴン・ホアン

皆さん、こんにちは!

この頃、雨が降ると少しじめじめした日々が続いていますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さる3月20日、埼玉県大宮教会で、3人の助祭の皆さんと共に、司祭叙階の恵みをいただくことができました。3人のうち、私の実兄も司祭の恵みをいただき、今は大宮教会、鈴木神父様の元と一緒に仕事をしています。私の場合は、今は川越教会に住みながら、毎月、約2週間は福島県のいわき市「もみの木」にあるサポートステーションでボランティア活動をしています。これから、

多忙の日々ですが、これも数え切れない多くの皆様の祈りやご支援のおかげと心から感謝しています。本当に有り難うございます。

さて、新司祭になってから、まさか私がかもう一度福島に行くとは思っていませんでした。3月末、すべての荷物を川越教会へ運び終え、ワレ神父様にご挨拶して、小さな封筒を渡され「読んで下さい」と言われました。中身の内容は、司教様が私に福島のボランティアに行きなさいという内容でした。私は、それを読んだ時、本当に神様が谷司教を通してまた私をそこへ導いて下さったのだなあと思いました。本当に嬉しかったです。

そして、5月中旬初めて「もみの木」に行きました。復興への作業が少しずつ進み、福島県の町は前のように人も車も多く走るようになりました。また、今も遠くから多くの人たちがボランティアとして被災地へ足を運び、支援活動を続けています。地震と津波で亡くなられた方々のことを思い起こし、祈りながら、さいたま教区の私たちが今後何をすべきかを考えていかなければならないと思いました。

私たちが関わっている福島県の人々にとっての一番の問題はやはり原発問題であり、今なお風評被害に差別に苦しまれています。そこで、私たちはこれからどこに目を向けるべきか(今後の方向性)を考えようと、浦和のサポセンともみの木のスタッフで話し合いを行いました。

今後の課題としては、仮設住宅にいる方々の現時点でのニーズ、気持ちや思いを少しでも理解するために、私たちは初心にかえり、緊張感をもって接するようにし、心のケアに努めながら、いつも、決まった人たちの所へ行くだけでなく、話したくても誰にも話せないでいる人、外に出たくてもなかなか出られない人のことを忘れないで、その人たちとの関わりを切り開いていくよう努める事だと思いました。また、社協との連携をとりながら、形として今後「もみの木」をもっともっと多くの方々に来てもらって、神様が望んでおられる事を活かしたいと思っています。

新司祭になってもまだまだ未熟な私ですが、これからもどうぞ皆さん宜しくお願いします。いつも、支えて下さり心から感謝申し上げます。有り難うございます。

司祭になって学んだこと

埼玉東ブロック担当司祭

(大宮教会・セウイホーム)

洗礼者ヨハネ 國本俊一(グエン・ゴクトアン)

皆さん、こんにちは。今年の3月に司祭叙階された國本と申します。叙階式までの道のりの間、大変お世話になりました。このような形でご報告出来ることを、神様と皆様に感謝したいと思いません。

さて、私は司祭叙階されて4ヶ月を迎えました。今はNPO法人「じりつ」で職員として、精神者施設グループホーム・セウイで勤務し、火曜日から金曜日、毎日車を走らせながら(片道25キロ程度)通勤しています。道中眠くならないように、ロザリオを一環唱えながら通っています。土日は大

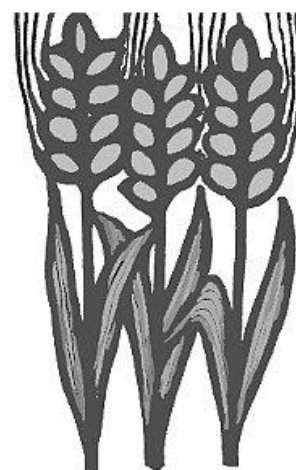
宮教会でミサを捧げながら、病者訪問や信者さんの家庭訪問などの宣教司牧活動を行っております。

司祭になって、こんなにも多忙な日々を過ごせることに神様に感謝、感謝するばかりです。司祭になって変わったこと、学んだことといえば、さいたま教区の8つの優先課題のひとつである「小さくされている人々と共に生きる」を自分のスローガンとして意識しながら、たくさんの人々と、特に精神・知的障害者の方々と接しているうちに、祈りの大切さやミサの大事さを改めてしみじみと感じています。

障害者の方々には、私たちが想像する以上に、波乱万丈な人生の道を歩いている方々がたくさんおられます。その人たちの体験談を聞く時に、自分の無力さを大いに感じます。何も出来ない自分がそこにいるのです。しかし、そこに神の恵みが私の中で働く事を感じます。何も出来ない私ですが、彼らのために自然に手を合わせて祈る自分の姿がそこにあり、私自身、これは不思議でたまりません。その祈りの中に、私は大きな恵みを感じるのです。彼らと毎日接していると、確かに自分のエネルギーが吸い取られるように感じることもあります。でもそれと同時に、充実な一日や幸せを感じるエネルギーももらっています。それが、私にこれからもやっていこうという気分にさせるのです。

司祭になって、結婚や家庭問題の相談を受けた時には、非常に悩みました。まだ司祭叙階からたった4ヶ月しか経っていませんが、毎日本当に疲れることもあります。しかし、神様の恵みをいっぱい頂いていることを感じます。これも皆様がいろいろな形で私を支え、応援し、祈ってくださったおかげです。良い司祭にはなれるかどうか分かりませんが、日々の生活の中で幸せを感じることでできる司祭として、毎日頑張っていきたいと思います。

どうぞこれからも、私たち司祭団と神学生のために欠かさずお祈りください。それが私たちの日々の支えとなり、力となります。司祭団も神学生たちも、私も、皆さんのために祈りをしています。神様の祝福と恵みが、皆さんと皆さんのご家族の上にたくさんありますように。



養成担当者より

幸せの証し人

埼玉東ブロック協力司祭
ヴィツラ・マルコ

「あなたは自分で幸せだと思うか」「お祈りや瞑想をするか」「自分で植林をするか」「近所の主人をどれだけ信用しているか」「自殺を考えたことがあるか」。これは、インドと中国には含まれている、世界で唯一チベット仏教を国教するブータン王国による聞き取り調査の問いだ。このアンケートは2005年に始まって2年ごとに実施され、国民総生産(GNP)で示されるような、金銭的・物質的豊かさではなく、精神的な豊かさ、つまり国民の幸福を示す基準(GNH)だ。GNHは心理的幸福、健康、教育、文化、環境、コミュニティー、良い統治、生活水準、自分の時間の使い方の9つの構成要素があるそうだ。

わたしは司祭叙階を受けてから、今年で19年目だ。20年間近く聖職者として生き、やっと「成人司祭」になろうとしているが、結婚もしなくて、子どもも育てず、借り家住まいもしない人は大人になれるだろうか。そして、結婚の愛も親としての愛情も知らない人は幸せになれるだろうか。しかし、わたしたち司祭はこの社会の中で、この本当の幸せを求めている社会の中でこそ、イエス様の幸せを証しする者だ。「わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言い出したペトロにイエスは「わたしのためにまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、今この世で、迫害も受けるが、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける」(マルコ10・28～30)と言い、神の国のために働いている人々に百倍の幸せを約束しました。

最近、「幸せになるにはどのようなことが必要か」と言われる時に、「ブータンに遊びに行けば」と冗談ながら言う。経済成長率が高い国や医療が高度な国の人々は本当に幸せだろうか。環境や生活水準で恵まれている国の人々が本当に幸せだろうか。GNPでもなく、GNHでもない、幸せに対して明確な観念をもつことはむずかしいことだと思う。しかし、国籍や文化と関係なく教会に本物の幸せを探し求めている人には「幸せ」な司祭に出会い、幸せはここにあると確認できるようにわたしは願う。やっと「成人司祭」になったわたしはさいたま教区の神学生の養成担当として、司祭の道を歩こうとしている神学生とともに、イエスの幸せの約束に希望を置きたいと思う。



感謝と報告

さいたま教区事務局長
ヘルムート・アウグスチヌス 矢吹 貞人

さいたま教区司祭を目指す神学生たちの養成のために、いつも祈りと献金による温かいご支援をいただき感謝いたします。お陰さまで、この春もまた、4名の神学生たち(姜 玫周、佐藤 智宏、グエン・ゴク・トアン、グエン・ゴン・ホアン)が大宮教会において司祭叙階の恵みを(3月 20 日)、また、1名(坂上 彰)が所沢教会において助祭叙階の恵みを受けました(3月 10 日)。新司祭となった4名は、早速、群馬中央北、埼玉南、埼玉東、埼玉西の各ブロックへ派遣され、司牧者の群れに加わって、皆様と一緒によき知らせを述べ伝える日々を始められています。

さいたま教区神学生は現在 5 名、そのうち 2 名は福岡キャンパスで、3 名が東京キャンパスで学びの日々を送っています。順調に行きますと来春には 1 名の神学生(助祭)が司祭叙階の恵みを受け、また 2 名の神学生が助祭叙階の恵みに与ることでしょう。

2011 年度の「一粒の麦」の会計報告は次の通りです。

会員数:298 名(51 名の増)

献金総額:6,003,444 円(ほぼ横ばい)

本当にありがとうございました。これまで通り、神学生養成費、神学校分担金などに使わせていただきました。

このように、この数年、召し出しが続いていることを皆様と共に神に感謝したいと思います。したがって、教区としては、当然に生じる養成のための費用の増加にも引き続き努力を続けなければなりません。「一粒の麦」は 2010 度は会員数も献金総額もそろって減という結果でしたが、喜ばしいことに、昨年度(2011 年度)は会員数が 50 名あまりの増となりました。信徒の高齢化が進む中ですが、どうかこれからもお力をお貸してください。所属教会の親しい信徒の方などでまだ入会されていない方がありましたら、ぜひお勧めください。

なお、ニュースレターなどが確実に届きますよう、転居・電話番号の変更等がありましたら、ご面倒でも、さいたま教区事務所まで必ずお知らせください。

間もなく盛夏となります。皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

皆様の上に神様の豊かな祝福がありますように。

一粒の麦感謝ミサ

日時 2012年9月1日(土)13:00~
場所 カトリック浦和教会
司式 谷 大二 司教



発行日 2012年7月18日
発行 カトリックさいたま教区
編集責任者 矢吹貞人
編集 さいたま教区神学生一同
住所 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 6-4-12
さいたま教区事務所内
TEL 048-831-3150 FAX 048-824-3532

代表 さいたま教区 司教総代理 猪俣 一省神父
振込先 郵便振替口座番号 00180-0-358503